

大槌町東日本大震災津波復興計画 基本計画

未来へ引き継ぐ
大槌の心意気

はじめに

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により多くの町民の尊い命や財産が奪われてから、早3年が経ちました。大槌町は現在、復興の途上にあります。単に元の町に戻すだけではない、再生・発展を見据えたハード・ソフト一体による復興を実現するためにも、力強く前に進んでいかなければなりません。

そこで、町民の皆様とともに一丸となって全力で復興に取り組み、未来へ引き継ぐ大槌の心意気を示すべく、本計画を改定することにしました。大災害からの一日も早い復興を成し遂げるため、様々な壁に抗う挑戦の気持ちを失ってはなりません。

心一つにがんばっぺし。

平成26年3月 大槌町長



復興計画とは

「大槌町東日本大震災津波復興計画」は、東日本大震災津波によって甚大な被害を受けた大槌町において、被害の状況や影響、復興に向けた課題を把握し、1日も早く復興を成し遂げるための未来の設計図です。

復興に向けた基本的な施策を示す「基本計画」と、各施策に対応した事業のあり方を示す「実施計画」の2つの計画で構成されており、今回改定した基本計画の計画期間は、平成23年度から平成30年度までの8年間です。

計画の理念

平成23年12月に策定された基本計画で、土木施設や宅地造成の進め方についての大筋が定められました。しかし、町民が大槌町で生活を続け、また町外に出ていた町民が戻って来るためには、これからの暮らしを支える居住環境や社会的・経済的・文化的環境についての方針を定める必要があります。

そこで、大槌町では、未来の暮らしのビジョンを明確にし、町民の力を結集するとともに、支援団体や企業などとも連携して、ビジョンを実現する「戦略」をかため、その実現に向かって挑戦していくこととしました。

四つの生活基盤

大槌町の魅力ある暮らしと風景を再生するためには、町民の生活を支えるための「4つの生活基盤」(物的・社会的・経済的・文化的な生活基盤)を整える必要があります。

これらの生活基盤は津波によって壊滅的な被害を受けましたが、これを作り直すことは、日本を先導する新しい地域社会のモデルを実現するチャンスといえます。

空間環境基盤

自然環境や都市基盤、住宅、コミュニティ施設など、町民の生活の器となる物的・空間的な基盤です。

社会生活基盤

地域社会の交流と支え合い、ケアや福祉、地域におけるコミュニティ活動などに関わる制度や仕組みといった社会的な基盤です。

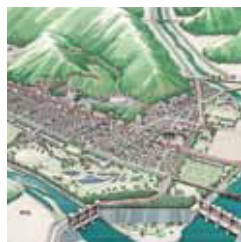
経済産業基盤

大槌町の経済をけん引してきた多くの産業、町の強みである「地域資源」を活かした産業といった経済的基盤です。

教育文化基盤

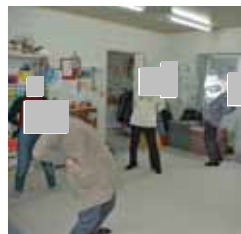
人間らしく生きていくために必要な心とからだの支えとなる文化的基盤と、文化を伝達・継承し発展させるための教育基盤です。

戦略達成に向けた基本方針



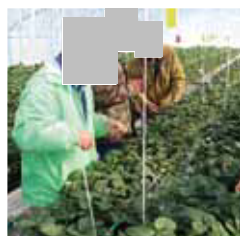
魅力ある持続可能なまちづくり／ 地域資源としての風景の再生

災害面や健康面で安全・安心だけでなく、環境面、経済社会面で持続可能なまちをつくります。また、誰もが暮らしやすい居住環境、交通環境を備えつつ、地域資源や風景を再生します。



支え合い誰もが暮らし続けられる 地域社会づくり

高齢者や子育て家族、若者、子ども、障がい者など、町民誰もが孤立せず、互いに支え合い、生きがいと希望を持って、生き生きと暮らせる社会を実現します。



若者を惹きつけ地域資源を活かす 産業の再生と創出

大槌町の「強み」である「地域資源」を早期に再生し、これを活かした産業を復興し、魅力ある職と生業の場を確保します。

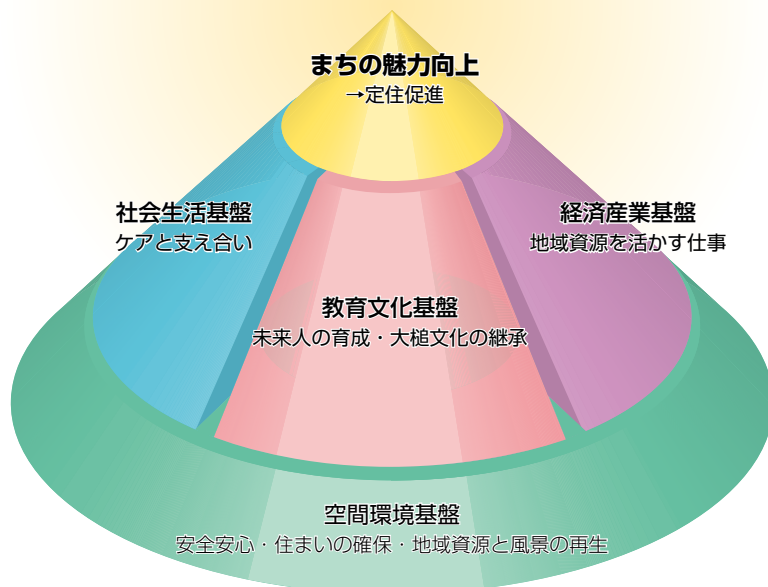


未来の大槌人の育成／ 文化の再生と知の継承

将来を担う活力ある大槌人を地域全体で育成します。また、歴史や伝統、生活文化を発掘・再生し、津波災害の記憶や教訓とともに新しい世代に伝えます。

希望の大槌への挑戦

海の見えるつい散歩したくなるこだわりのある「美しいまち」



「希望の大槌への挑戦」という基本理念のもと、「空間環境基盤」の上に「社会生活基盤」、「経済産業基盤」、「教育文化基盤」の3つの基盤が三位一体となったまちづくりを進めることで、町の魅力向上による定住促進につなげ「海の見えるつい散歩したくなるこだわりのある『美しいまち』」というまちの将来像を実現します

空間環境基盤

基本方針

魅力ある持続可能なまちづくり／地域資源としての風景の再生

基本戦略

- 安全・安心な復興市街地の早期実現
- 持続可能性に配慮した社会基盤・公共施設の整備
- 誰もが暮らしやすいコミュニティ生活圏の形成
- 地域資源としての風景の再生
- 地域住民主体のまちづくり活動の推進

主な重点施策

地域の身近な「拠点」形成

- 徒歩や自転車で行ける範囲内への、お店や集会所、広場などの誘導を通じた地域のサービス・交流拠点づくり



災害に強い復興市街地づくり

- 区画整理事業や防災集団移転促進事業、災害公営住宅の建設など復興市街地の整備
- 安全確保のための避難路や防災拠点、海岸保全施設の整備



水辺や災害危険区域の再生活用

- 被災した沿岸部の災害危険区域に関する長期的視点からの利用方法（産業、観光など）の検討
- 将来ニーズに対応した大槌駅南側区域の活用

重点プロジェクト

風景再生プロジェクト

- 町の魅力を高め、美しい風景を再生し創り出す景観形成ガイドラインの作成
- ガイドラインを踏まえた景観づくり
 - ・集会所や公園など施設の整備
 - ・土地利用や屋外広告の規制
 - ・地域住民が進める景観形成活動の支援



協働まちづくりプロジェクト

- 地域復興協議会の開催を通じた地域の復興イメージやコミュニティ形成の検討
- 暮らしやすい環境づくりや地域の魅力づくりに向けて町民やNPOなどが行う活動の支援



「海に見える美しい町」日本一を目指して

大槌町の豊かな自然風土を活かし、海や山や湧水とともにある生活環境の再生を進めます！
地域の歴史性を踏まえつつ、町民とともに新しい大槌町を創造していきます！

社会生活基盤

基本方針

支え合い誰もが暮らし続けられる地域社会づくり

基本戦略

- 住民共助・おおつち型地域包括ケア体制の構築
- 生涯を通じた健康増進・介護予防・社会参加活動の推進
- 保育・子育て環境の整備と支援活動の促進
- コミュニティ活動・コミュニティビジネスの展開促進

主な重点施策

地域への多目的集会施設の整備

- 幅広い世代が活動し交流できる多目的な集会施設の整備
- 集会施設の整備や利用方法などの地域での検討



まちかどスポーツ広場や子どもの遊び場づくり

- 健康づくりや子ども達の遊びのための小規模なスポーツ広場などの整備
- 地域住民やNPO、ボランティアによる施設整備の支援



コミュニティ再生の支援

- 仮設住宅でのコミュニティ支援の継続
- 仮設住宅から復興市街地への移行を踏まえたコミュニティの再生や立ち上げ支援

重点プロジェクト

おおつち型地域包括ケア推進プロジェクト

- 保健や医療、介護、福祉などの多様な関係者と地域住民の情報共有・活動連携の体制づくり
- 医療、福祉から地域活動まで一体となった地域包括ケアの仕組みの確立



コミュニティ連携プロジェクト

- 町内会・自治会とNPOなどの支援団体の連携を図るためのコミュニティ協議会の開設
- 町民間の交流の活性化や交流人口の拡大に向けた情報メディアとの連携



「健康づくりと支え合い」日本一を目指して

大槌町に住むすべての人が健康で安心して生活できるよう、高齢者や子育て世代に寄り添い、町民とともに支えていく地域社会をつくれます！

経済産業基盤

基本方針

若者を惹きつけ地域資源を活かす産業の再生と創出

基本戦略

- 地域資源を活かした産業の再生と高度化
- 若者や町外の人を惹きつける新しい産業・生業の創出
- 6次産業化と連携した観光・物産の振興
- 中心市街地・産業拠点・観光拠点等の戦略的拠点の整備と活動の誘導
- 地域・近隣レベルの買物・交流小拠点の形成

主な重点施策

被災事業所の再生と 企業誘致

農林水産業の高度化支援

- 生産施設などの早期復旧の支援
- 産業基盤の整備による企業誘致の促進
- 農林水産業の6次産業化や経営基盤強化の支援



スモールビジネスなどの 起業支援

- コミュニティビジネスなどの起業促進と雇用の拡大
- 新産業の創出につながる産業間ネットワークの形成

定住の促進

- Uターン・Iターン者の獲得に向けた移住希望者への情報提供
- 定住促進に向けた住まいの確保の支援



重点プロジェクト

おおつちブランドプロジェクト

- ブランド化に向けた連携推進の体制づくり
- 地域資源を活かした特産品開発とブラッシュアップの支援
- 認定制度などを通じたブランド化の実現
- PRや販路開拓の促進



観光振興プロジェクト

- 産官学民が連携した総合的な観光振興の体制づくり
- 町の魅力を効果的に発信する人材の育成
- 地域住民との協働による観光資源の発掘とPRの実施



日本一の「おおつちブランド」を目指して

産業を振興・誘致して働く場づくりを進めます！

大槌町の魅力を高め、発信することで、特産品や観光のブランド力を高めます！

教育文化基盤

基本方針

未来の大槌人の育成 / 文化の再生と知の継承

基本戦略

- 教育環境の再生・強化と「ふるさと教育」「防災教育」の展開
- 自然文化資源の再発見、再生と発信
- 文化・スポーツ活動の活性化
- 震災体験の継承・発信のためのプログラムと場づくり

主な重点施策

小中一貫教育校の体制づくり

- 「(仮称)おおつち学園小中一貫教育校」の建設
- 町内の全小中学校での小中一貫教育の展開
- 学校行事などを通じた児童・生徒の交流の推進

文化・スポーツの担い手育成

- さまざまな芸術文化に触れ、幅広い視野を身につける機会の提供
- 地域の伝統行事やスポーツ活動の担い手の育成と体制づくりの支援

(仮称)大槌メディアコモンズの整備

- 図書館、博物館、文書館が連携した文化・情報の拠点施設の整備
- 災害関係のさまざまな資料の保存と活用



重点プロジェクト

地域教育プロジェクト

- 学校支援コーディネーターを通じた地域と学校の連携の推進
- ふるさと科の実践による地域への愛着、生き方・進路指導、防災教育の学び



おおつち文化継承プロジェクト

- 自然や文化などの地域資源の調査と保存
- 地域資源に関する学びの機会の提供
- 町民による文化継承活動の支援
- 震災の記憶や記録の収集・保存と発信



「文化を引き継ぐ人づくり」日本一を目指して

郷土芸能や祭りなど大槌町の持つ魅力ある文化を大切に、地域を愛する次世代を育てます！
震災の教訓をしっかりと刻み、未来へ継承することで災害に強いまちづくりを目指します！

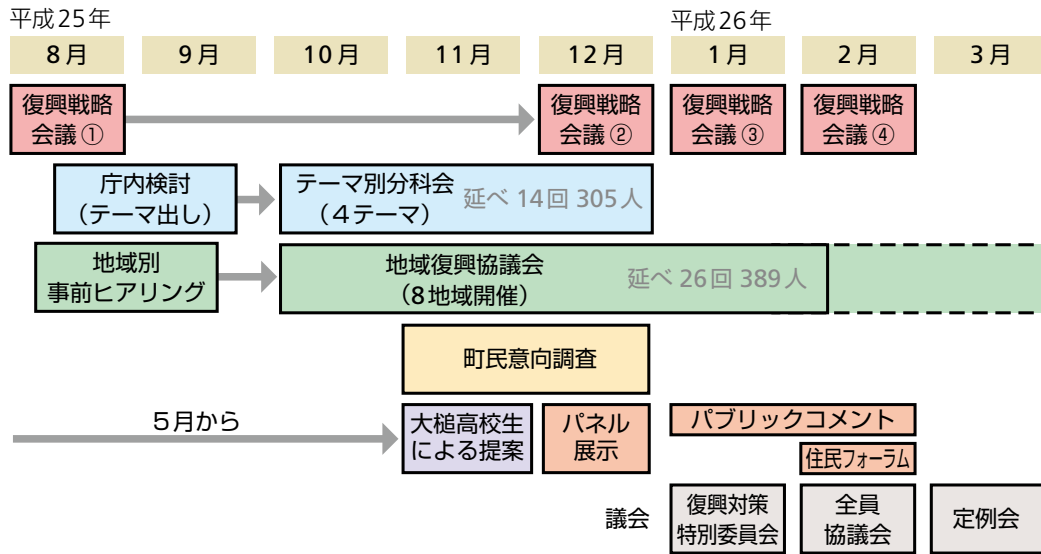
策定プロセス

「オール大槌」による策定

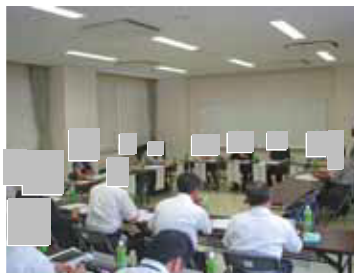
改定にあたっては「大槌町災害復興基本条例」に基づき、公民が協働した「オール大槌」による策定体制としました。

「復興戦略会議」には、各分野の町内有識者と専門家が参加し、計画案を吟味しました。「テーマ別分科会」では、復興まちづくりの4テーマに関する町民や事業者などが参加し、施策を検討しました。「地域復興協議会」では各地域の住民が復興のあり方について議論を重ねました。

その他、町民意向調査、大槌高校生による提案や、パネル展示、パブリックコメント、住民フォーラムなどを通じて様々な形で町民意向を反映するよう努めてきました。



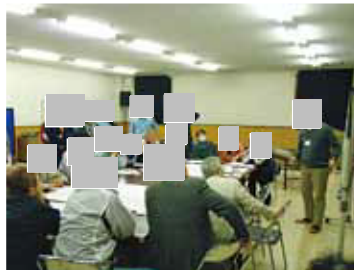
さまざまな町民参加の様子



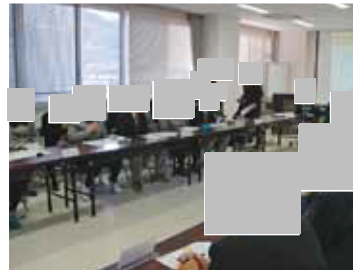
復興戦略会議
4回開催され、テーマ別分科会や地域復興協議会の議論に基づいた計画案について、委員による熱心な議論が展開されました。



テーマ別分科会
①土地利用・社会基盤、②福祉・コミュニティ、③産業、④教育・文化の4分科会に各テーマの関係者や職員が参加し、ワークショップで施策を検討しました。



地域復興協議会
8地域で開催され、コミュニティの再生や生活再建、地域文化の継承、高齢者対策など地域の将来について幅広く話し合いました。



大槌高校生による提案
大槌高校の2年生110名が、町の将来の姿やその実現に向けた施策を考え、11月に「大槌高校コミュニティ戦略」として町長に提案しました。



パネル展示
計画の改定方針が整理された12月に、テーマ別分科会や地域復興協議会での意見を含めた策定過程を町民に公開しました。



住民フォーラム
パブリックコメントと併行して2月2日に開催され、計画案の説明と意見交換を行い、参加者から様々な意見が出されました。